

沿革 | 水田農業研究所

大正 9 年	現在地に山形県立農事試験場庄内分場として創立
昭和 2 年	いもち病防除指定試験開始（～昭和 20 年）
昭和 16 年	修練生養成事業開始（～昭和 46 年）。第 1 次育種事業開始
昭和 22 年	ごまはがれ病防除指定試験開始（～昭和 36 年）
昭和 23 年	田畑輪換指定試験開始（～昭和 36 年）
昭和 25 年	山形県立農業試験場庄内分場と改称
昭和 27 年	水稻研究係、経営研究係を設置し 2 係制となる
昭和 31 年	経営研究係が水稻研究係に統合し、病虫害研究係を設置
昭和 37 年	農機具研究係設置（昭和 40 年、農業機械研究係と改称）
昭和 38 年	庶務係設置。統合実験農場に関する研究（～昭和 42 年）
昭和 39 年	育種研究係を設置し 5 係体制となる
昭和 47 年	大規模営農実験農場に関する研究（～昭和 51 年）
昭和 49 年	庄内分場を庄内支場と改称
昭和 52 年	あさあけ（庄内 20 号）奨励品種に編入（初育成品種）
昭和 57 年	総務課、作物部、育種部、環境部を設置し、1 課 3 部体制となる 尾花沢試験地の育種業務を引継ぎ、育成系統名を「山形」番号とする
昭和 60 年	現本館及び付属棟完成。バイテク（薬培養等）による品種開発開始
平成 元年	育種部をバイオ育種部と改称。銘柄水稻品種開発事業開始（～平成 5 年）
平成 12 年	バイオ育種部を水稻品種開発部と改称
平成 13 年	作物部と環境部を統合し、水田技術研究部とし、1 課 2 部体制となる
平成 17 年	研究機関組織再編により山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場庄内支場となり、総務課、水稻研究科の体制となる
平成 21 年	山形県農業総合研究センター水田農業試験場と改称
平成 23 年	水稻研究科を水稻部と改称
平成 24 年	世代促進温室の改修と、換地による圃場造成
平成 30 年	高温耐性検定施設及び耐冷性検定施設の整備
令和 2 年	山形県農業総合研究センター水田農業研究所と改称

これまでの育成水稻品種一覧（育成順（ ）内は育成年）

あさあけ(1977)、はなの舞（1988）、みちのくわせ（1988）、雪化粧（1992）、どまんなか（1992）、はえぬき（1992）、出羽燦々（1995）、里のうた（1999）、山形 59 号（2002）、ゆめさやか（2000）、出羽の里（2005）、里のゆき（2005）、こゆきもち（2006）、つや姫（2009）、出羽きらり（2012）、山形 95 号（2013）、山形糯 110 号（2013）、雪女神（2015）、山形糯 98 号（2016）、山形 119 号（2016）、雪若丸（2017）、山形糯 128 号（2018）、山形飼糯 138 号（2021）